



立命戦、 13年ぶりの勝利!

観戦記：関学戦
立命戦

インタビュー：OL#64 石川琢 × OL#72 山内大輔

対談：RB #7 鈴木達雄

#27 岡部朋也

#35 田嶋寛介

コーチ高木稜

新入生紹介 vol.6

Gangsters News

Gangsters

2013.11.17

Gangsters Press no.11

京都大学 × 関西学院大学

15:00 K.O. @ キンチョウスタジアム

すべて、この日の勝利のためにやってきた。KGブルーのユニフォームを前に、緊張と興奮が押し寄せる。浮かず、吞まれず。前半は、幾度となくスペシャルプレーで奇襲をかけ、敵を惑わせたが、堅い守りに阻まれ、一歩及ばず。ディフェンス陣の粘りも虚しく、終わってみれば28-0と、完封負けを喫した。

今回の関学戦は、スペシャルチームはスペシャルプレーをしまくった。いずれのプレーも選手それぞれの実行は素晴らしかった。誰もが練習通りプレー出来ていた。

最初のキックオフカバーでは敵陣10yds付近まで押し込めたが、これは空いたスペースにハイキックを落としてボールを転がすという作戦が成功したものである。

パントではスペシャルプレーを4回おこなった。パンターランは敵を完璧にブロックしパンターが良い走りをした。他にもロールパントからのキープフェイクのパス、パンターランアクションパス、ダブルリバースをした。どのプレーも練習通りの動きをできた。しかし、4回のスペシャルプレーのうち3回は1stダウンを取れずに終わってしまった。

ここでは関学戦で起こったことから私が得た学びを3つ記すことにする。 <記：STコーディネーター 前川 護之>

1 練習は嘘をつかない

プレーの成否については後で考察するとして、ここでは選手の実行について考えてみたい。上記の各プレーとも選手の実行はパーフェクトに近かったと思っている。これは練習の成果にほかならない。関学戦のスペシャルチームのプレーは8月の時点で決めていた。8月からシーズン開幕後も各試合に向けた練習の合間を縫ってコツコツとひたすら同じプレーを練習し続けてきた。想定されるあらゆる状況への対策もきっちり練習できた。この結果、本番のプレッシャーもものともせずに選手達は自分の役割を遂行することが出来た。きっちり練習を積み重ねれば本番では必ず成果を出せるということをも身を持って感じた。



2 練習台になる者の意識

パント隊形から*ダブルリバースをした。ブロッキングは完璧で大外が空いていたが、ランナーが内を走ってしまう。結果的にタックルされて4thダウン失敗に終わった。このプレーもまた8月からずっと練習していたのだが、それがかえって失敗につながってしまった。何回も練習するので、練習台の*ダミーチームがプレーに慣れてしまって、どんどんブロックをかいくぐって外へ出てきてしまうのだ。そのため、ランナーは練習の時から内に切り上がっていたのである。この事態は試合前から気づいていたが、その時は「ディフェンスが反応してブロックの外に出てくることもあるだろうから、その時の練習として内を走るのも悪くはない」と思っていたのだ。試合後にこれが間違いであることに気づいた。練習の仕方、練習台の動き方が悪かったのだ。これは、その時練習台に入っていた者が悪いのではない。チームの文化としての問題である。練習台が「やらせてあげる」という練習をいままで知らなかったのだ。全ての練習がそうあるべきではないが、練習ごとの意識の切り替えができるようになっていかなければならない。

*ダブルリバース…ボールを何度もピッチするトリックプレー。

*ダミーチーム…対戦校のプレーを真似て、練習の相手をするチーム。スカウトチーム。

3 コーチの戦術眼

私の反省である。スペシャルプレーを4回した。内3回は1st ダウンを取れなかった。1つは上で述べたダブルリバーズである。あとの2つはパンターのランフェイクからのパスだった。1つ目はロールフェイクからのパスで、パスは成功したものの1st ダウンに届かずにタックルされた。もう1つはパンターの位置に控え QB を入れて、そこからパンターランフェイクの*ウィングへのパスだ。パス自体は良かったが、ディフェンスに反応されてカットされてしまった。

これらのプレーもまた選手の実行はきちんと出来ていた。だが、それぞれのプレーをするタイミングが悪かった。理由を詳しく書くととても長くなってしまいますので個々では省略させていただくが、同じ4つのスペシャルプレーでもやる順番を変えるだけで4つとも全て成功させられたらと思う。これもまた大なる学びである。

*ウィング…レシーバーの一種



	1Q	2Q	3Q	4Q	計
京都大学	0	0	0	0	0
関西学院大学	7	7	14	0	28

関学戦は攻めに攻めた。そこまでしなくても良かったのかもしれない。しかし、攻めた結果足りないものも多く見えた。4回生には次のチャンスがもうないが、チームとしては学びの多い試合だったと思う。学びをしっかりと活かすことが4回生に対して報いる方法と思い、来年以降につなげていくつもりである。



photo

gallery



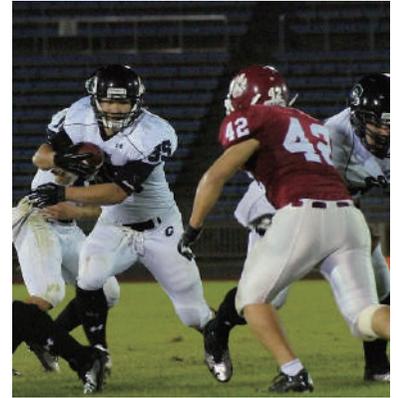
京都大学 × 立命館大学

18:40 K.O. @ 西京極陸上競技場兼球技場

前節関西学院大学との全勝対決に2年連続で苦汁を舐めさせられた京都大学。戦術面・実力面どちらにおいても、学生王者の圧倒的実力の前に屈した悔しい敗戦。その後2週間の取り組みでは、選手よりもむしろコーチ間で衝突があり、まさにチーム一丸となって勝利を追い求めた。

アサインメントでは負けていない。今年のコーチ陣は、大介監督を筆頭に早朝から深夜まで考え抜き、また休日・平日の授業も返上し、練習メニュー作成、相手チームのスカウティングやアサインメント生成に近年では最も時間を費やしたという自負がある。しかし、それだけでは足りなかった。重要なのは選手が実行するという。技術面・精神面において我々は常に彼らの支えでなければならない。負ければ選手だけでなく、コーチも皆敗北者である。何が何でも選手に力を発揮してもらおう。そうすれば結果は付いてくる。その想いに呼応してくれたかのように、今日の選手は躍動していた。

試合は京大がキックオフフラッシュを選択。圧倒的パワー・サイズ・スピードを誇る立命大オフェンスに対し、身体能力では劣るが多彩なブリッツを誇る今年好調のディフェンス陣が素早い寄りと激しいタックルで粘る。間もなく立命大パントで攻守交替。絶好のフィールドポジションで迎えた直後のオフェンスでは、ファーストプレーから RB#27 岡部の力強いランで着実にゲイン。ノーハドルオフェンスに対し浮足立つ立命大を尻目に、京大は何度もミスはあったものの堅実なドライブをみせ、最後は K#85 大塚が FG を成功させて3点先取。3-0。精神的に脆い立命大に先制パンチを与えることに成功した。



続く立命大のドライブ。京大ディフェンスがエンドゾーン直前まで攻められるも、粘った結果相手キッカーが FG 失敗。今日は運も味方している京大。その後は京大がリードを守るも、第2Q中盤までお互いに拮抗した展開に。膠着状態を打破したのは、今年不調が続いたオフェンスチーム。今までチームを救い続けた岡部に加えて、長期間怪我に苦しんだ“北海の重戦車”RB#35 田嶋の相手をなぎ倒す突進、度々ミドルヤードのゲインを魅せてきた WR#83 山本睦と QB#19 小原のホットライン。そして最強・最速と名高い立命大 DL 相手に粘る京大 OL 陣。パス・ラン・ライン三位一体となって、立命大を翻弄。2度目の FG 成功に繋げ、6-0 とリードを広げた。このリードを、立命の再三の FG 失敗、そして京大 DB#29 吉村の TD パス成功を防ぐハードタックルなどで死守した。



徐々に引き始めた立命館大学。後半も依然として京大ペースで試合は展開する。畳み掛けるかのように、アメフト歴半年ながら何度もチームの窮地を救った大型新人 TE#88 佐々木のロングゲインから生まれた小原の TD ラン、そして岡部のダイブプレーで更に TD を重ね、第3Qだけで14点追加しリードを20点差に広げる。20-0。遂に勝ちが目前に迫ってきた。



しかし、一矢報いたい立命館。彼らは驚異の身体能力を誇るモンスター集団である。毎プレーに一発 TD の脅威が在り、決して油断してはならない。それどころか、12年勝っていないのである。油断なんて発想自体あってはならない。ここで気を緩めてしまえば、勝利は容易に毀れ落ちてしまう。大丈夫だろうか。サイドラインの選手に目をやると、そんな心配は全く必要なかったということを知らされた。結局試合を通して、これまでにない集中力で京大ディフェンスは立命オフェンスをほぼシャットダウン。20-2。試合終了のホイッスルと共に、西京極に足を運んだ全ての京大関係者、ファンが13年振りの勝利に酔いしれた。



	1Q	2Q	3Q	4Q	計
京都大学	3	3	14	0	20
立命館大学	0	0	0	2	2



補足ではあるが、京大の2失点は何が原因か。実は、これは意図的な失点である。自陣深くまで追い込まれた京大は、パントチームが意図的にエンドゾーンの中でニーダウン。これにより、2点献上したものの、陣地を大きく回復することに成功し、結果的に相手のタッチダウンのリスクを回避するという、リードしている時ならではの頭脳プレーであった。つまり、ディフェンスはあの強力な立命オフェンスを実質完封したことになる。まさに大健闘である。

今日は特に、今節まで発揮されることのなかったオフェンスの真価に震えた人が多いだろう。ディフェンスコーディネーターとしては、指示通りに動き、フィニッシュにこだわり最後までボールを追い回したディフェンスの現役選手には敬意を表したい。13年振りの勝利の実感はまだない。慢心してはならない。今日に関しては終始ペースをコントロールされた立命館が自滅したという側面もあっただろう。我々は常に挑戦者である。やはり、目標は依然として日本一。関西大学への準備を今すぐ始めるつもりである。

<記：DEF コーディネーター 巖 宗博>

QB#19 Yuya Kohara

Key Player

この試合の勝因は、間違いなく QB#19 小原の変化である。前節の関西学院大学戦では、試合終了直前のプレーで尻もちをつき、これ以上ない格好悪い姿を全国に晒した京大のエース。「これ以上カッコつけても意味がない。ダサくてもいいから必死に自分を曝け出す」と、敗戦後に決意を固めた彼の「自由」になった姿は周りの選手を鼓舞しただろう。そして、それに応えたオフェンス陣。彼らの取り組み、そして気迫が立命大を揺さぶり、噛み合った攻撃を生んだのは言うまでもない。この結果に浮かれることなく、しかし全く気負うことなく、関大戦ではありのままの自分をプレーで発散してほしい。その一心である。



石川 琢

Ishikawa Taku

山内 大輔

Yamauchi Daisuke

Offense Line

120kg級の京大の壁。今年度のパートリーダーを務める頭脳・スピード派 OL#72 山内大輔 (理・4) と、サイズとパワーで相手 Def を圧倒する #64 石川琢 (経済・4)。全くタイプの異なる 2 人の OL に話を聞きました。<インタビューー: 徳田 (文・1)>

徳田: まず、お互いの印象をきかせてください。

山内: 最初は、新歓期の練習の時、いきなり気さくに話しかけられたから、先輩かな、と思った。(笑) 新入生なのにもうすでに勧誘する側やったよな。その時怪我してたし。

石川: ひげ生えてたからなあ。山内は、普段は見た目通り、優しい感じで柔らかそうで、包容力のある感じ。

山内: 琢はミーティングでもかなりリーダーシップあるし、でもユーモアもあって、頭の回転が速い。

徳田: 選手としては?

石川: うまいね。4年間 OL やってただけあって、インテリジェンスとテクニクがあると思う。

山内: やっぱり圧倒的なパワーかな。特に上半身のパワーは部内でも飛び抜けてるから、基本的に 1 対 1 は OL 最強やな。

徳田: 琢さんは最初 DL だったんですよね。OL と DL どっちが好きですか?

石川: OL。理由は、OLの方が難しいから。DLのことはそままでよくわからんけど、フォーカスされるのはだいたい個人。OLは5人全員がユニットとして機能しないとプレーが成立しなくなる。その難しさもあって、OLが好き。

徳田: 今年の OL ユニットの特徵は?

山内: 平均体重が重い。あとは、下級生が結構入ったのと、永久保と俺以外試合に出てた奴がいなくて、#51 平野 (3 回) とか #77 池淵 (2 回) を教えるのが難しい。今年は一応スピード・パワーがあると言われてるけど。

石川: それもあって、コーチの決めるアサイメントとかによって変わるけど、最初はモーション系のプレーが多かった。まあ、今年は、デカくて速くてかっこいいって書いていて。(笑)

徳田: KG 戦・立命戦で印象に残っているプレーは?

石川: KG 戦は無いな。全部やられた。立命戦も、正直覚えてない。見返して、ダメなとこしか見つからない。

山内: 立命戦はバックスが結構走ってくれたからな。それでもゴール前のパワープレーでタッチダウンとれたのは嬉しかった。

石川: しくったけどな。あ、って思ったらいつの間にか岡部が走ってた。まあ、特徴的なプレーはタッチダウンで。



徳田：何か2人にまつわるエピソードはありますか？

石川：山内はいつも冷静でインテリジェンスがあって、俺はプレー中のこと覚えてないから、春の立命戦かなんかで、山内の珍しいコミュニケーションミスがあったとき、山内が言い張ったら、コーチもみんな俺じゃなくて山内のほうを信じて。あとからビデオ見返して、あれ、って。(笑)

山内：それはほんとにごめん。

石川：ちょっと頑固なところあるよね。(笑)

徳田：4年間やってきて、変化はありましたか？

石川：チームはすごい変わったな。

山内：個人では、パートリーダーとして、リーダーシップのこととかよく考える。どうしたらこいつ良くなるかな、とか、練習の効率とか。下級生のときも、その当時当時で考えてたけど、4回生になると立場が変わるから。このチームに入ってから、考える、考える、と言われ続けてるよな。

石川：俺は体重が増えました。(笑)最初からデカかったけど、純増で20キロくらい。山内は入部からほとんど変わってないな。

徳田：ライバルと思っている人は誰ですか？

石川：そんな奴おらんあ。他大のやつとはしゃべったことないし。試合中に罵声浴びせあうだけやな。(笑)

山内：俺はなんだかんだで富翔(4回 DL 富田)かな。1回生からずっと当たってるし。

石川：当たってるんやったら番矢(DL コーチ)やなあ。*Gang 受験生で同期やったから。いや、ライバルじゃないで。ライバルは自分自身です。

山内：シーズン途中からやったら、お前かな。

石川：そういったら俺もお前かなあ。

山内：琢は結構ずばずば言うからな。秋入ってからかな。春とかあんまり言ってなかったけど。今やオフェンスのトップやん？そういうリーダーシップの発揮の仕方です。



徳田：では、山内さんはどうしてパートリーダーをしてらっしゃるんですか？

石川：やりたい奴がやるんやけど、俺は山内を推した。理由は言うとも長いから…率直に言うと、俺はやりたくなかったし、やるべきでないと思ったから、やらなかった。山内だったら任せられると思った。

山内：俺がやらなかった方がよかったんじゃないかと思うこともあるけど。

石川：それはないわ。おまえが一番。

山内：最終的に今の形が一番じゃないかと思ってる。

徳田：後輩に向けて何かあれば。

石川：まあ…すごくたまに来年のこと考えるけど、俺と永久保と…今の4回 OL 全員抜けるから、来年は大変になるやろ。だから常々言ってるけど、リーダーシップを持って頑張ってもらいたいな。

山内：残り何試合あるかわからんけど、今年は今年なりのリーダーシップを発揮して、残り何戦か、一緒に闘おう。

徳田：最後に、関大戦に向けて意気込みを聞かせてください！

石川：勝つしかないですね。目標としては、勝つっていうより、自分たちでやってきたのを全部出したい、っていうのが究極目標やな。

山内：OL 全体の目標としては、えげつないブロック、相手を引かせるようなブロックをできればなと思ってます。最終的には、勝ちます！



*Gang 受験生…部員に受験指導を受け、京大合格、Gangsters 入部を目指す受験生。

岡部 朋也

鈴木 達雄

田嶋 寛介

高木 稜

RUNNING BACK'S

走路を見出し、器用な走りで着実にゲインを重ねる #7 鈴木達雄 (医・4) と、誰にも止められない力強いランで、他校の脅威となる #27 岡部朋也 (農・4)、さらに、敵をなぎ倒す最重量ボックスとして期待を集める #35 田嶋寛介 (理・3) の現役3選手。そして、Best11にも選出された昨年度の絶対的エース、高木稜。Gangstersを背負う3世代RB対談。

——RBの面白さは？

高木：田嶋やったら相手を弾き飛ばすヒットとか？

田嶋：それはうれしいですね。あとはTDとれるとこ。いままですらに機会はないけど。

岡部：やっぱり確実にボールを持てるとこ。WRだと、一生懸命走ってもボール来ないことあるけど、TBだと確実にボールが来る。持ちたがり、ってことかな。(笑)

達雄：Defとの1対1で、自分で振れたときとか。1対1がしやすいポジションだから、やりがいがある。

高木：カッコよく言うと、目立てる。自分次第で何とでもなるよね。俺も岡部に近くて、自分次第でどうにかなるとか、達雄と同じで、1対1でかわせたときとか。後でビデオ見たときうれしい。(笑)

——それぞれのプレースタイルについて

田嶋：自分の特徴は相手を吹っ飛ばすところですね。引きずって。

達雄：昔は引きずるしかなかったけど、冬に手を使うとかカットとか覚えて、相手をおかわせるようになった。だからより1対1を楽しめるようになった。

高木：達雄は密集抜けるの上手いよね。インサイドとか、見る目ある。田嶋ほどパワーランナーじゃないし、スピードもそこまでないけど、密集抜けるセンスあって、そこが強み。ゾーンがうまい。

岡部：俺はオープンばっか。WR兼任になってから、オープンしかない。(笑)

高木：RBとしては？

岡部：去年まではゴリゴリでした。高木さんがカットバック系で。でも、ちょっと俺がカットバック覚えて、属性なくなった感じ。今は属性なしじゃない？ けっこう外出て、そこからまくって、ゲイン！みたいな。

達雄：立命の1プレー目とかね。

高木：俺はカットバックでめっちゃ逃げるプレイヤーだったから(笑) 岡部の走りの独特のリズムとか、相手のラインは嫌がるやろ。



——参考にしている選手はいる？

田嶋：基本的に京大の先輩を意識してます。でも、去年の KG の望月とかは意識しますね。

高木：たしかにそっち系だね。似てる。

岡部：参考にしているのは、De'Anthony Thomas(University of Oregon 所属)。そいつ自身が WR と兼任で、親近感が湧いた。ほんとにすごくて、相手をふる感じとか、ブロッカーの使い方とか、ビデオでみてて、すげえな、って。あと、もちろん高木さんも。

達雄：カットと緩急の感じとか、高木さんすげえな、って思ってた、真似はできないけど、見てる。外人選手だったら Adrian Peterson(NFL Minnesota Vikings 所属) 見てるな。この足がこう、とか参考にしてるといより、試合前に見てテンションあげてる。

高木：俺もカットの踏み方とか、抜ける瞬間の加速とかを見てる。Chris Johnson(NFL Tennessee Titans 所属) の中間疾走中の走り方とか。あとは、4 つ上の高松さん。俺が 1 回生の時の 5 回生コーチで、2 回生でリーディングラッシャーになった、すごい人。

——やってみたかったポジションは？

田嶋：RB のほかに QB、DL、TE/WR をやったことがあるけど、他のスポーツだったらまだしも、アメフトはポジションごとに覚えることが多いから、すごい大変。

岡部：俺は LB やってみたかったな。

達雄：DL とか。自分が強かったらの話、ってのがあんだけど、ラインはやってみたい。純粋に力と力の勝負で、相手を蹂躪できたら楽しいやろうなって。

高木：CB やってみたかった。一切ボールを投げられないくらい、すごい CB。

田嶋：絶海の孤島、みたいな？

岡部：去年の大岡さんとかなんな感じだったよな。

——今シーズンで印象に残っている試合・プレー

田嶋：立命戦で、久しぶりに試合に出て、相手を吹っ飛ばしたプレー。実力不足は感じたんですけど、練習したことをやればできるな、っていう収穫がありました。

達雄：近大戦と大教戦はラン出たし楽しかった。

高木：ヤードで言うとどのくらい？

達雄：近大が 99yds で大教が 115yds です。

岡部：俺は春の立命戦。立命でも通用するな、とその試合で思った。秋もやっぱり立命戦かな。相性がなんかいいんだよね。印象に残ったプレーは、春の立命戦で、ディフェンスを 1 対 1 できれいにかわせたプレー。俺的にはエラーだったけど、結果的に上手く行って、自分の中で繰り返してできるようにした。



——下級生で注目選手は？

達雄：対、かな。1 回生やのにカット切れたり、足がそもそも速い。ディフェンスからもやばいって聞いている。

田嶋：宮路もセンスある感じ。

岡部：下級生じゃないけど田嶋はすごいよな。この前で出場 3 試合目とは思えない。

——今年の関大の印象は？

高木：全体的に倒しに来るっていうよりボール掴みに来るって感じ。

岡部：足が速い。個人の能力が高いよね。でも近くで見ると案外でかくなかったな。澤田(LB#96) はでかいけど。

——関大戦に向けた意気込み

達雄：勝ちます。

岡部：勝ちます。

田嶋：勝ちます。

高木：3 人で 400yds くらい？(笑) 俺らの時は、今と状況は全然違って、勝っても負けても引退だったし。立命戦終わって、比叡山登ったよね。モチベーション出ない奴らで登って、どうしよう、って。だからそんなアドバイスすることはないよ。どういうプレーしたいとか、ある？

田嶋：澤田を倒します！(笑) 立命戦よりゴリゴリ行って、Def を吹っ飛ばします！

達雄：RB で意気込みって、難しいですね。やることやるだけ。

岡部：TB は試合だからといって「うおー！」とはならないよね。Off-Back 陣はならないな。あっても小原くらい。試合のときも、いつも通り。相手がどうだから、ってことはあまり関係ないな。

達雄：同じ道産子として、高木さんから田嶋には？

高木：田嶋は来年もあるし、今のベストを出すことやな。立命戦でも出せてたけど、この 2 週間であと 1 ランクあげて行ってほしい。4 回生 2 人は最後のシーズンで、取り立てて言うことないけど、4 年間アメフトやってきて、今が人生でのピーク、本気でスポーツやるのもこの 23 年で最後だから、一番輝けるように、祈ってます。

FRESHMEN

vol.6



中島 健志 (LB)
なかじま たけし
洛南・水泳、サッカー
164cm/73kg



比良 直大 (DB)
ひら なおひろ
大阪桐蔭・フラッグ、空手
173cm/67kg



見た目にそぐわぬ激しいプレーが持ち味。時折見せる鋭いツッコミにも注目！(滑川)



プレーの反省が忠実で勤勉な努力派。ひょっとしたことで、すぐすねてしまうおちゃめさん。(玉木)



右を睨む目力が強い男。普段は優しい。もとは細身だが、最近順調に体重を増やしている。(登内)



番 大輝 (TE)
ばん だいき
東海・サッカー
182cm/71kg



藤井 直樹 (DB)
ふじい なおき
西京・野球
171cm/72kg



Hit も激しくキャッチもシユアなナイスガイ。性格も真面目で笑顔がとっても素敵。(滑川)



アメフトに対して、とてもストイックで運動能力も高い。すぐ名言を言いたがるなど、めんどくさかったりするが、よく笑うかわいいやつ。(仲井)



筋肉フェチにはたまらないであろう体を持つアスリート。引き笑いがチャミング。(登内)



藤本 勝弥 (OL)
 ふじもと かつや
 大阪桐蔭・ラグビー、日本拳法
 177cm/106kg



増田 翔吾 (OL)
 ますだ しょうご
 桐朋・水球
 180cm/95kg



恵まれた体格を活かしたパワフルなプレーが持ち味。のほほんとしてる。歌が上手い。(辻)



OL を引っ張るガッツある男。OB の貫禄抜群だが、本人曰く童顔らしい。(辻)



間宮 章 (DL)
 まみや あきら
 安房・野球、水球
 179cm/87kg



少し頭の面で抜けている部分もあるが、素直で真面目で Hit も強い。すごいお金持ちなのでいろいろずれている。(仲井)



道場 月音 (MGR)
 みちば つきね
 神戸女学院



早起きが得意で、しっかりものつきちゃん。眼鏡姿が印象的な彼女がギャンググッズを一手に手掛ける。(戸崎)



Tシャツ返却のお願い

関学、立命戦にて行いました人文字企画にご協力してくださった方、ありがとうございました。その際に着用いただいたTシャツは回収させていただいておりますが、数枚紛失しております。もし試合当日に返却しそびれた方がいらっしゃいましたら、弊部クラブハウスにお送りいただくか、関大戦の際に弊部グッズテントにお持ちください。よろしく願いいたします。

年賀状まだ間に合います！

好評につき、Gangsters オリジナル年賀状の販売期間を延長いたします！**注文枚数に応じた特典**もございますので、弊部ホームページにて要項をご確認のうえ、奮ってご注文ください。なお、関西大学戦のグッズテントでも直接販売いたします。

(<http://gangsters.blog.eonet.jp/blog/2013/11/gangsters-9b42.html>)

Gangsters News vol.10

星取表・試合日程

2013年度秋試合の星取表(11月17日現在)と、今後の試合日程です。

大学名 (勝-敗-分)	関学大	立命館	関西大	京都大	神戸大	近畿大	龍谷大	大教大
関学大 (6-0-0)	勝敗 点数/試合日 場所		○35-15 11月9日 長居陸上	○28-0 10月27日 キンチョウ	○49-0 10月12日 王子	○21-0 9月28日 王子	○45-2 9月15日 EXPO	○77-3 9月1日 王子
立命館大 (5-1-0)		勝敗 11月24日 長居陸上	○19-0 10月26日 西京極	●2-20 11月8日 西京極	○31-3 9月29日 EXPO	○27-0 10月13日 EXPO	○48-0 8月31日 EXPO	○63-0 9月14日 EXPO
関西大学 (4-2-0)	●15-35 11月9日 長居第2	●10-19 10月26日 西京極	勝敗 点数/試合日 場所		○12-6 9月15日 EXPO	○49-14 8月30日 EXPO	○24-7 10月13日 EXPO	○54-6 9月28日 王子
京都大学 (5-1-0)	●0-28 10月27日 キンチョウ	○20-2 11月8日 西京極		勝敗 11月24日 長居陸上	○17-9 8月31日 EXPO	○14-10 9月14日 EXPO	○18-14 9月29日 EXPO	○21-9 10月12日 王子
神戸大学 (1-5-0)	●0-49 10月12日 王子	●3-31 9月29日 EXPO	●6-12 9月15日 EXPO	●9-17 8月31日 EXPO	勝敗 11月23日 王子		●11-21 10月26日 西京極	○20-9 11月10日 神戸ユニバー
近畿大学 (1-5-0)	●0-21 9月28日 王子	●0-27 10月13日 EXPO	●14-49 8月30日 EXPO	●10-14 9月14日 EXPO		勝敗 11月23日 EXPO	●15-20 11月9日 長居第2	○42-14 10月27日 キンチョウ
龍谷大学 (2-4-0)	●2-45 9月15日 EXPO	●0-48 8月31日 EXPO	●7-24 10月13日 EXPO	●14-18 9月29日 EXPO	○21-11 10月26日 西京極	○20-15 11月9日 長居第2	勝敗 11月23日 EXPO	
大教大 (0-6-0)	●3-77 9月1日 王子	●0-63 9月14日 EXPO	●6-54 9月28日 王子	●9-21 10月12日 王子	●9-20 11月10日 神戸ユニバー	●14-42 10月27日 キンチョウ		勝敗 11月23日 EXPO

日程	対戦相手	会場	KickOff
11月24日 (日)	関西大学	大阪市長居陸上競技場	11:00
12月1日 (日)	西日本代表校決定戦	神戸市立王子スタジアム	14:00
12月15日 (日)	甲子園ボウル	阪神甲子園球場	13:05
1月3日 (金)	ライスボウル	東京ドーム	未定